

事項	黒毛和種肥育牛への稲ソフトグレインサイレージの給与効果																			
ねらい	肥育用配合飼料の原料は輸入に依存しており、価格の高止まりが続く中で国産飼料資源として「飼料用米」が注目されている。今回、飼料用米を原料とした稲ソフトグレインサイレージ（以下「稲SGS」という。）を調製し、肥育試験を行ったところ、通常飼料と同等の成績を示したので参考に供する。																			
指導 参考 内容	<p>1 稲SGSの調製条件 水分：30～35%、粉碎粒度：約2mm以下</p> <p>2 調整方法 配合飼料と稲SGSの混合割合が現物重量比で7：3になるように調整する。 配合飼料と稲SGS、大豆粕を合わせた給与量が、日本飼養標準（肉用牛）のTDN要求量の110%以上、CP要求量の130%以上を充足するようにする。</p> <p>表 給与方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">項目</th> <th colspan="2">混合割合</th> </tr> <tr> <th>現物重量比</th> <th>（乾物重量比）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">配合飼料+</td> <td>配合飼料</td> <td>70</td> <td>（76.5）</td> </tr> <tr> <td>稲SGS</td> <td>30</td> <td>（23.5）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">大豆粕</td> <td colspan="2">0.3kg現物給与（1日1頭あたり）</td> </tr> </tbody> </table> <p>（注）1 乾草・稲わらは通常どおり給与する。 2 使用する稲SGSの水分が著しく異なる場合は、乾物重量比を参考に混合する。</p> <p>3 給与効果 配合飼料だけを給与する場合に比べて、飼料の食い込みが良好となり、日増体量は高く、体高及び胸囲が同等で、発育は良好である。また、枝肉成績に大きな差は見られない。</p> <p>4 1頭当たり飼料費 稲SGSを30%混合した場合の1頭当たりの飼料費は、通常給与とほぼ同等である。</p>			項目		混合割合		現物重量比	（乾物重量比）	配合飼料+	配合飼料	70	（76.5）	稲SGS	30	（23.5）	大豆粕		0.3kg現物給与（1日1頭あたり）	
項目		混合割合																		
		現物重量比	（乾物重量比）																	
配合飼料+	配合飼料	70	（76.5）																	
	稲SGS	30	（23.5）																	
大豆粕		0.3kg現物給与（1日1頭あたり）																		
期待される効果	配合飼料の30%程度（現物重量比）を稲SGSで代替した場合、発育、枝肉成績が良好であることから、農家所得の向上が見込まれる。																			
利用上の注意事項	<p>1 稲SGSは発酵飼料であるため、開封後は二次発酵が進むことからこまめに脱気するなど品質維持に努める。</p> <p>2 開封後の二次発酵は、暑熱期の進行が特に早い。このため、冬期間に使いやすい分量に小分けしておく。</p>																			
問い合わせ先 （電話番号）	畜産研究所 繁殖技術肉牛部（0175-64-2233）	対象地域	県下全域																	
発表文献等																				

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 給与内容

(平成26年 青森畜産研)

区分 (頭数)	給与飼料	内容	肥育ステージ		
			前期 (11～14ヵ月齢)	中期 (15～21ヵ月齢)	後期 (22～30ヵ月齢)
稲SGS30% 混合区 (3頭)	肥育用配合飼料	原物：70%(乾物：76.5%)	○	○	○
	稲SGS	原物：30%(乾物：23.5%)	○	○	○
	乾草		○	×	×
	稲わら		○	○	○
	大豆粕	0.3kg/1頭/1日	○	○	○
稲SGS50% 混合区 (3頭)	肥育用配合飼料	原物：50%(乾物：58.3%)	○	○	○
	稲SGS	原物：50%(乾物：41.7%)	○	○	○
	乾草		○	×	×
	稲わら		○	○	○
	大豆粕	0.5kg/1頭/1日	○	○	○
通常給与区 (3頭)	肥育用配合飼料		○	○	○
	乾草		○	×	×
	稲わら		○	○	○

- (注) 1 表中の○×は給与の有無を示す。
 2 配合飼料：前期は肥育前期・肥育通常飼料の併用。中・後期は肥育通常飼料を使用。
 3 DM：配合飼料88% 稲SGS63%
 4 エネルギー要求量：日本飼養標準（肉用牛）2008版に基づき、各区とも目標増体量に対するTDN要求量の110%以上を充足。
 5 CP充足率：各区の期間平均で同レベル（138%）に設定。

表 2 発育成績（増体・体高・胸囲）

(平成26年 青森畜産研)

試験区分	増体(kg)			体高(kg) 【終了時】	胸囲(cm) 【終了時】
	開始時 体重	終了時 体重	日 増体量		
稲SGS 30%混合区	327	873	0.95	145	250
稲SGS 50%混合区	324	796	0.82	140	244
通常給与区	331	806	0.83	142	243

表 3 飼料給与量・摂取量（1頭当たりkg、%）

(平成26年 青森畜産研)

試験区分	給与量 (kg/頭)	摂取量 (kg/頭)	摂取割合 (%)	対照区との比較 (%)
稲SGS 30%混合区	6,885 (5,626)	6,608 (5,391)	96.0 (95.8)	113.6 (105.8)
稲SGS 50%混合区	7,130 (5,562)	6,327 (4,892)	88.7 (87.9)	108.8 (96)
通常給与区	6,295 (5,513)	5,816 (5,095)	92.4 (92.4)	100 (100)

(注) 上段：原物 下段：乾物

表 4 枝肉成績

(平成26年 青森畜産研)

試験区分	等級			枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	バラの 厚さ (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留基準値 (%)	BMS No.
	A-5	A-4	A-3						
稲SGS30%混合区	3頭			561	77	9.5	2.1	76.9	11
稲SGS50%混合区	2頭		1頭	502	62	9.1	1.8	75.6	8
通常給与区	2頭	1頭		530	75	9.5	2.3	76.8	9

(注) 成績は、各区3頭の平均値。

表 5 飼料費試算

(平成26年 青森畜産研)

試験区分	飼料費 (円/頭)	対照区との比較 (%)
稲SGS30%混合区	279,069	98.0
稲SGS50%混合区	267,332	93.9
通常給与区	284,680	100

(注) 飼料費試算単価（1kg当たり）
 配合飼料：49円、稲わら：27円、稲SGS：25円、乾草51.2円